

運動負荷時のエネルギー代謝に及ぼす鍼通電刺激の影響

吉田 行宏

保健・老年鍼灸学講座

【目的】エネルギー代謝に及ぼす鍼通電刺激（EA）の影響を検討するため、血中乳酸（BL）と血中遊離脂肪酸（FFA）、呼吸代謝等のパラメーターを測定し検討した。

【方法】健康成人男性7名（23±1歳）を対象とした。cont群（無刺激）とEA群を設け、同一被験者に対して2回の実験を行った。自転車エルゴメーターを用いてランブ負荷をオールアウトまで行った。負荷前に両側の内側・外側広筋、大腿直筋に対して40mm 20号鍼を刺入し、低周波鍼通電器で10分間、2Hzで筋収縮が起こる強度でEAを行った。被験者の指先から自己採血によりBLとFFAを測定し、BLの結果からLT（乳酸性作業閾値）を求めた。負荷時の呼吸代謝からV-Slope法を用いてVT（換気性作業閾値）を算出した。下肢の疲労感はVASにて測定した。10分間のEA（安静）の後にFFAと下肢の疲労感の測定を行った。その後、運動負荷を行い30秒ごとにBLを測定し負荷直後にFFAと下肢の疲労感を測定した。

【結果及び考察】EA群ではVTとLT共に延長が認められた。BLの最高値、FFAは両群で差は認められなかった。下肢の疲労感は負荷後で有意に上昇したが、両群間では有意な差は認めなかった。VT及びLTは持久力の指標とされていることから、運動前のEAはエネルギー代謝に影響を及ぼし持久力を向上させる可能性が示唆された。

高齢者疾患に対する鍼灸治療： パーキンソン病に対する鍼灸治療

福田 晋平，江川 雅人

保健・老年鍼灸学講座

パーキンソン病は、振戦、筋強剛、寡動を示す中枢神経系の疾患で、50歳以上の高齢者に多い疾患である。L-dopaという薬剤により、症状は改善するが、次第に効果が減弱し、副作用症状が出現することがある。高齢社会の到来により患者数も増加し、鍼灸治療を希望して来院する患者も年々増加している。明治国際医療大学では「パーキンソン病鍼灸治療専門外来」を開設し、現代医学の薬物治療と鍼灸治療の併用による治療を勧めている。我々は15名のパーキンソン病患者に対して鍼灸治療を施術し、その結果、自覚的な表情の乏しさ（60.0%）や歩行障害（53.8%）、振戦（43.2%）の改善を認めた。また、抑うつや、便秘、睡眠障害などの自律神経症状や痛みにも効果を認めた。これらの効果がパーキンソン病特有の症状を軽減し、投薬量を抑制し、時には投薬量を減量することが可能な症例もみられた。本疾患は慢性進行性疾患であり、症状は持続し、増悪するが、鍼灸治療の併用は副作用もなく、長期間継続することが可能な、極めて安全な治療方法として注目されている。